

成人の誓い

大人への扉を開き
新たな一歩を踏み出す



PROFILE

樽林 巧望 (くればやし たくみ)
第一小学校、浜岡中学校を卒業
中学在学時には生徒会長を経験



成人の日を前に1月9日、市内で成人式が開催された。本年度は対象者380人のうち、351人が市内外から参加した。今回は、新成人を代表して誓いの言葉を話した中町の樽林巧望さんに今後の抱負を聞いていく。

伸び伸びと成長できた20年間

樽林さんは幼い頃、サッカーと鬼ごっこを愛するわんぱく少年だった。小学3年生から「黒潮サッカースポーツ少年団」でサッカーを始め、中学生ではメンバーの選出試験に合格して「ソーニョFC掛川」に加入。サッカー漬けの毎日を過ごした。

サッカーの他にも習字、ピアノ、英会話、水泳と多くの習い事をしてきた樽林さん。「両親は、自分がさまざまなことを学ぶチャンスやその環境を与えてくれました。大学に進学して一人で暮らすようになってからは『これまで当たり前だと思っていたことが当たり前ではなかった』ということを特に実感しました。

両親には本当に感謝しています」と思いを話す。

教諭として母校に戻りたい

大学2年生の樽林さんは、中学・高校の社会科教諭になることを目指して勉強中だ。しかし、新型コロナウイルスの影響で入学以来、ほとんど通学ができていないという。「二人で勉強することは大変ですが、ポジティブに考えるようにしています。自分で計画を立てて勉強することができるようになりました」とほほ笑む。

樽林さんに理想の教師像を聞くと「きっかけ作りができる教師です。例えば自分で撮影した写真を、自分の言葉で説明しながら生徒に見せることで、生徒に『気付き』を与えられるようになります」と意気込む。

両親への感謝の気持ちと成人としての決意を心に刻み、今後の人生を力強く歩んでいく樽林さん。まっすぐ前を見ているその瞳は、希望に満ちあふれていた。